

大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

日常の学校生活において、生徒の多くが登校時間の定刻までに登校することができており、すすんで挨拶を行うことや、落ち着いた状態で学校生活を過ごすことができています。そのため、過去数年間において、暴力行為による案件は0件と、発生していない。また、授業や諸行事はもちろんのこと、学校生活のあらゆる場面において、生徒が主体的・積極的に活動に参加し、なかまと協働して取り組むこともできている。そのため、校内調査における「学校の規則を守っている」に対する生徒の肯定的回答の割合は、95.0%と高い。

その一方で、不登校生徒の割合は令和6年度においては11.8%と、小規模校（全校生徒数219人）の割合として捉えると、決して低い数値であるとは言いきれない。さらに、授業中は集中して積極的に取り組むことができているが、それが家庭学習に結び付き、充実されているかとの面から捉えれば、校内調査における「家では自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答が52.8%に留まっており、十分に果たされているとは言いがたい部分がある。また、年度当初に実施された全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答をする生徒の割合は86.5%であったが、年末に実施した校内調査における「自分には、良いところがあると思う」に対する肯定的な回答をする生徒の割合は、77.8%と減少した（学校全体では73.8%）ことからみれば、毎日の活動における取り組みの結果が、生徒自身の自己肯定感を高めることに有効に機能させるためには、まだ改善の余地がある。

このような現状において、本校生徒の優れている点をさらに育み伸ばすことと並行して、課題改善に向けて生徒に達成感や成就感を味わわせる指導を重視していく。学習面では英語科を校内研究授業の軸に位置づけて「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、さらなる学力の向上とともに、「できた」と思える機会を多く作り出すことで、生徒の自己肯定感を育てていきたい。生活面では、SCやSSWと担任を中心とした学年団が連携を密にして取り組むことで、不登校生徒だけでなく、配慮や支援を要する生徒へのサポートへとつなげ、だれ一人取り残さない教育へとつなげていきたい。

これら、確かな学力の定着と自己肯定感の向上を基盤として、「知・徳・体」の調和を図り、健全な育成へとつなげるため、全教職員が一体となって教育活動を展開していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の校内調査における「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を89%以上にする。
- 年度末調査における不登校生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 令和7年度の校内調査における「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の校内調査における「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。
- 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語・数学ともに平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より上回る。
- 令和7年度の校内調査における「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を40%以上にする。
- 令和7年度の校内調査（保護者）における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を93%以上にする。

2 中期目標に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 年末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答するを生徒の割合を83%以上にする。(令和6年度 80.1%)
- 年末の校内調査における「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を89%以上にする。(令和6年度 86.6%)
- 年末の校内調査における「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。(令和6年度 73.8%)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 年末の校内調査における「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。(令和6年度 88.5%)
- 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語・数学ともに平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より上回る。

77期生 (令和6年度	国語	1.13%	数学	1.10%
76期生 (令和6年度	国語	1.14%	数学	1.11%
- 年末の校内調査における「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。(令和6年度 93.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等ICTが適さない日数を除く。(令和6年度 1.1%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を35%以上にする。(令和6年度 30%)
- 令和7年度の校内調査(保護者)における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を91%以上にする。(令和6年度 88.0%)

大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A; 目標を上回って達成した	B; 目標どおりに達成した
C; 取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D; ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 年末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を83%以上にする。(令和6年度 80.1%)</p> <p>○ 年末の校内調査における「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を89%以上にする。(令和6年度 86.6%)</p> <p>○ 年末の校内調査における「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。(令和6年度 73.8%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者・地域と連携を図り、いじめ・問題行動を生まない学校づくりを推進する。</p>	B
<p>指標 毎日の観察及び各学期に実施する調査や教育相談により早期に発見・対応することで、年度内において100%解消する。</p>	
<p>② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者に対する家庭学習における学習支援や子育てについての情報提供を行う。</p>	B
<p>指標 校内調査(保護者)における「学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。」に対して、最も肯定的な回答をする保護者の割合を45%以上にする。(令和6年度 41.8%)</p>	
<p>③ 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者・地域・区役所・消防署と連携し、合同避難訓練及び災害時対策訓練を実施する。</p>	B
<p>指標 校内調査における「自然災害、事故が発生した時、どうしたらよいか日頃から考えている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。(令和6年度 66.5%)</p>	
<p>④ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 挨拶をはじめとする基本的な生活習慣を意識させることで、道徳的規範意識の高い集団を育成する。</p>	B
<p>指標 校内調査における「学校は、礼儀や道徳、マナーの大切さを教えてくれている。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。(令和6年度 69.0%)</p>	
<p>⑤ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 学級・学年活動及び学校行事を通じて集団の一員との自覚を育成し、互いを認め、高め合う集団づくりを推進する。</p>	B
<p>指標 校内調査における「学級でみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。(令和6年度 68.2%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①については、日々生徒の様子を観察していることで、少しの変化も見逃すことなく早期発見につながっている。また、生徒との会話や相談により認知した事案については、学年及び全教員と共有することで早期対応ができています。その結果、現在までに大きくなった事案や解決できていない事案はなく、100%解消ができています。</p> <p>取組内容②については、7月の行内調査において最も肯定的な回答が48%と目標を上回っている。</p> <p>取組内容③については、69%で、目標をやや下回っている。</p> <p>取組内容④については、68%で、目標を下回っている。</p> <p>取組内容⑤については、67%で、目標を下回っている。</p> <p>現時点では目標値に届いてはいない項目もあるが、今後さらに取組内容を改善しながら継続し、目標値を達成することで、生徒の安心・安全を守り、安心安全な教育の推進につなげる。</p>

次年度への改善点
<p>○「いじめはどんな理由があってもいけない」については、最も肯定的な回答が86%で目標を上回った。○「学校や学級が楽しい。」については、肯定的な回答が94%で目標を上回った。○「自分には良いところがある」については、肯定的な回答が78%で目標を上回った。</p> <p>取組内容①については、指導中の事案もあるが、100%解消ができています。取組内容②については、最も肯定的な回答が52%と目標を上回っている。取組内容③については、63%で、目標を下回っている。取組内容④については、75%で、目標を達成した。取組内容⑤については、69%で、目標を下回っている。</p> <p>いじめについての項目が昨年度よりも向上しており、生徒の意識が変わっているといえる。取り組み内容で目標値に届いていない項目があるが、それは目標値を高く設定したことが一因である。昨年度よりも数値を伸ばした項目が4つのうち3つあった。次年度はそれぞれ目標値を達成することで、生徒が安心・安全な教育の推進につなげる。</p>

大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A; 目標を上回って達成した	B; 目標どおりに達成した
C; 取り組んだが目標どおりに達成できなかった D; ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 年末の校内調査における「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。(令和6年度 88.5%)</p> <p>○ 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1%上回る。</p> <p align="center">77期生 (令和6年度 国語 1.13%) 76期生 (令和6年度 国語 1.14%)</p> <p>○ 令和7年度の中学生チャレンジテストにおいて、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1%上回る。</p> <p align="center">77期生 (令和6年度 数学 1.10%) 76期生 (令和6年度 数学 1.11%)</p> <p>○ 年末の校内調査における「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。(令和6年度 93.5%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 指導形態や教材を工夫し、基礎学力の定着を図る。また低学力生徒や配慮の必要な生徒に対して、補充学習を実施する。</p> <p>指標 校内調査における「先生は、授業やテストでの間違いや理解していない部分について、わかるまで教えてくれる。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上にする。(令和6年度 56.5%)</p>	B
<p>② 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教科において「主体的・対話的で深い学び」を達成するための教材研究および授業展開を検討する。</p> <p>指標 学力向上サポート事業を活用し、教員校内研修(公開授業参観)を全教員が実施する。校内調査における「先生は、授業内容や教え方を工夫している。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。(令和6年度 74.0%)</p>	B
<p>③ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 インプットした知識を活用し、自らの意見や考えを構築し、アウトプットさせることにより、生きて働く知識・技能を育成する。</p> <p>指標 校内調査における「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。(令和6年度 59.8%)</p>	B
<p>④ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健体育科の授業や学校行事を通じて、心身の健康に対する意識を高めるとともに基礎的な体力を向上させる。</p> <p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価A及びB判定の割合の合計を40%以上にする。(令和6年度 男子22.7%、女子42.9%)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①については、7月生徒アンケートの結果では最も肯定的な回答をした生徒は54%で、目標を下回っている。 取組内容②については、7月生徒アンケートの結果では最も肯定的に回答した生徒は66%で、大きく下回っている。 取組内容③については、7月生徒アンケートの結果では最も肯定的に回答した生徒は62%で、目標を下回っている。 取組内容④については、今後の調査を実施する予定である。</p> <p>取組内容①～③については、それぞれ目標値を達成できていない。特に取組内容②については、目標を10ポイント以上下回っている。授業内容や指導計画の見直しを行い目標値を達成することで、未来を切り拓くための学力・体力の向上を推進する。</p>

次年度への改善点
<p>○「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深め、広げることができている。」については、肯定的な回答が90%で、目標をやや下回った。 ○チャレンジテストでは、3年生は昨年度比で国語+1.16 数学+1.06で、それぞれ目標を下回った。しかし国語は昨年度より+0.02であった。2年生は昨年度をそれぞれ上回ったが、国語+0.03 数学+0.06と目標を下回った。 ○「保健の知識や運動によって、心身の健康を意識することができた。」については、肯定的な回答が92%で目標をやや下回った。 取組内容①については、12月生徒アンケートの結果では最も肯定的な回答をした生徒は57%で、目標をやや下回っている。取組内容②については、12月生徒アンケートの結果では最も肯定的に回答した生徒は71%で、目標を下回っている。取組内容③については、12月生徒アンケートの結果では最も肯定的に回答した生徒は67%で、目標を下回っている。取組内容④については、男子12.1% 女子32.5%であった。 目標を上回っている項目が多く、学習面に関しては昨年度と同様、高水準を保っていることがわかる。しかしながら体力面では昨年度を下回り課題が残る。日々、体を動かすことを意識づけするなどして、体力面を改善する。</p>

大阪市立豊崎中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A; 目標を上回って達成した	B; 目標どおりに達成した
C; 取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D; ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。ただし、事務局が定める学校行事等ICTが適さない日数を除く。(令和6年度 1.1%) ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を35%以上にする。(令和6年度 30%) ○ 令和7年度の校内調査(保護者)における「学校は、地域・家庭に向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を91%以上にする。(令和6年度 88.0%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>① 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 授業や学級活動で効果的にICTを活用することで生徒の意欲を引き出し、何事にも積極的に取り組む姿勢を育成する。</p>	B
<p>指標 校内調査における「授業には、興味・関心を持って意欲的に取り組んでいる。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。(令和6年度 86.0%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。については、取組内容①については、7月実施の生徒アンケートでは肯定的な回答をしている生徒が85%で、目標をやや下回っている。学習者用端末を活用し、生徒の興味関心を引き出せる授業を実践し目標値を達成することで、学びを支える環境の充実に推進する。</p>

次年度への改善点
<p>○ICTの利用状況については、80%を超えた日が3.2%と目標を大きく下回っている。しかしながら使用状況は昨年度よりも改善しており、特に最近60%以上の利用率で推移している。端末を使用する意識が高まっているといえる。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、「教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を35%以上にする。」に関しては、昨年度よりも月累計残業時間が1時間減少している。基準1をクリアしている教職員の割合が51%であり、達成見込みである。</p> <p>○令和7年度の校内調査(保護者)における「学校は、地域・家庭に向くなど、日常的に地域連携に努めている。」について、肯定的な回答が90%で、目標をやや下回った。</p> <p>取組内容①については、肯定的な回答をしている生徒が86%で、目標をやや下回っている。</p> <p>目標を達成できなかった項目もあるが、昨年度よりもほぼすべての項目で数値が向上している。次年度は、今年度以上に「心の天気」を活用し、生徒の心の変化に気づき、教育環境を充実させる。また保護者との連携を円滑にし、それぞれの目標を達成する。</p>